

強者の戦略

東大日本史のみかた 50 [解答編]

こんにちは。日本史の岡上です。さて、今回は中世の朝廷の経済基盤をめぐる状況の変化を問う出題でした。

中世における朝廷と武家政権の関係は複雑で、苦手とする方も多くいたのではないのでしょうか。鎌倉時代から室町時代にかけて朝廷と武家政権の関係、また武家政権の支配が及ぶ範囲についてもしっかりとイメージをもっておく必要があります。

それでは解説を始めていきましょう。

<中世の朝廷の経済基盤をめぐる状況の変化>

設問

(5)に述べる3代の天皇が譲位を果たせなかったのはなぜか。鎌倉時代以来の朝廷の経済基盤をめぐる状況の変化と、それに関する室町幕府の対応にふれながら、5行以内で述べよ。

問われているのは、資料文(5)で述べられている3代の天皇が譲位をはたせなかった理由。鎌倉時代以来の朝廷の経済基盤をめぐる状況の変化と、それに関する室町幕府の対応にふれることが条件となっています。

最初に条件の部分を資料文で確認していきましょう。

- (1) 後嵯峨天皇の死後、皇統が分かれて両統迭立がおこなわれると、皇位経験者が増加し、1301年から1304年にかけては上皇が5人も存在した。上皇たちの生活は、持明院統では長講堂領、大覚寺統では八条院領という荘園群に支えられていた。
- (2) 室町幕府が出した半済令には、諸国の守護や武士による荘園公領への侵略がすすむなか、荘園領主の権益を半分は保全するという目的もあった。さらに1368年には、天皇や院、摂関家などの所領については全面的に半済を禁止した。
- (3) 内裏の造営や即位にともなう大嘗祭などの経費は、平安時代後期から各国内の荘園公領に一律に賦課する一国平均役によってまかなわれており、室町時代には幕府が段銭や棟別銭として守護に徴収させた。

まず「鎌倉時代以来の朝廷の経済基盤」とは何か

強者の戦略

を確認していきましょう。

資料文(1)

・上皇たちの生活は、持明院統では長講堂領、大覚寺統では八条院領という荘園群に支えられていた（鎌倉時代後期）

資料文(3)

・内裏の造営や即位にともなう大嘗祭などの経費は、各国内の荘園公領に一律に賦課する一国平均役によってまかなわれていた（平安時代後期以降）

つまり、「**鎌倉時代以来の朝廷の経済基盤**」とは**①長講堂領・八条院領などの荘園群**、**②内裏の造営や即位儀礼の際に徴収する一国平均役**であることがわかりました。

次に、この朝廷の経済基盤が鎌倉時代以来どのように変化したのかを確認していきます。

資料文(2)

・諸国の守護や武士による荘園公領への侵略がすすんだ

最後に、それに関する室町幕府の対応について確認をしておきます。

資料文(2)

・半済令を出し、荘園領主の権益の半分は保全する
・1368年（＝戦乱を治めつつある頃）には天皇や院、摂関家などの所領については全面的に半済を禁止（＝権益を全面的に保全する）

資料文(3)

・内裏の造営や即位にともなう大嘗祭などの経費は、幕府が段銭や棟別銭として守護に徴収させる

つまり、室町幕府は戦乱を治めていくなかで、**諸国の守護や武士による荘園公領への侵略を抑え、守護を通じて天皇家や摂関家の所領の保全をはかり、またそれまでの一国平均役を段銭・棟別銭というかたちで確保していった**、とまとめることができます。

では、次に「3代の天皇が譲位をはたせなかった理由」を考えるために資料文(4)(5)をみていきましょう。

(4) 1464年、後花園天皇は譲位して院政を始めるにあたり、上皇のための所領を設定するよう足利義政に求めた。位を譲られた後土御門天皇は、2年後に幕府の経費負担で大嘗祭をおこなったが、これが室町時代最後の大嘗祭になった。

資料文(4)では、天皇が室町幕府に対して所領の設定を求めたり、幕府の経費負担で大嘗祭をおこなったことが記述されています。つまり、この段階では室町幕府による朝廷の経済基盤の保全がおこなわれていることがわかります。しかし、この後土御門天皇による大嘗祭が室町時代最後の大嘗祭になったとあるのは何故でしょうか。

1464年という西暦を考えれば、もう分かりますよね。そう、その3年後（1467年）には応仁の乱が勃発し、室町幕府による全国支配の体制が大きく揺らぐこととなります。すなわち、これまでは室町幕府が全国の守護に号令をかける形で一国平均役としての段銭・棟別銭を徴収していたわけですが、**応仁の乱による室町幕府の弱体化により、段銭・棟別銭の徴収が難しくなり、大嘗祭を執り行うことができなくなってしまう**のでしょう。

(5) 1573年、織田信長から譲位を取りはからうとの意思を示された正親町天皇は、後土御門天皇から3代のあいだ望みながらも果たせなかった譲位を実現できることは朝廷の復興につながる

強者の戦略

として大いに喜んだ。

応仁の乱後の室町幕府の弱体化によって、朝廷の経済基盤は保全はされなくなったわけですが、それに対し織田信長が正親町天皇の「讓位を取りはからう」との意思を示しました。それは織田政権が**室町幕府に代わって讓位後の所領を保全し、また讓位にかかわる儀礼に必要な経費を確保する目処がたった**ということを意味するわけです。

ここまでくれば「3代の天皇が讓位をはたせなかった理由」は明確になります。つまり、**朝廷の経済基盤を保全する武家政権が弱体化してしまったために、朝廷は所領や讓位にかかわる儀礼に必要な経費を確保できなかったため、讓位をはたすことができなかった**のです。

以上をまとめて、解答を作成してみましょう。

【解答例】

鎌倉時代以来、朝廷の経済基盤である荘園群は諸国の守護や武士による侵略を受けた。それに対し室町幕府は戦乱を治め、守護を通じて天皇家や摂関家の所領の保全をはかり、一国平均役を段銭・棟別銭というかたちで確保した。しかし応仁の乱以降、幕府は弱体化し、天皇は讓位にかかわる儀礼に必要な経費を確保できなくなった。(150字)

さて、みなさんの解答はいかがだったでしょうか？

論述問題の解答はもちろん一つではありませんので、「これはどうだろうか？」と自分では判断つかないものは必ず、添削してもらうことをお勧めします。この『強者の戦略ホームページ』でもメールにて質問などを受け付けていますので、どしどし送ってきてくださいね。

それでは、今回はこの辺にいたしましょう。次回

「東大日本史のみかた」をお楽しみに！！